

わたし ニュース

I T A M I S H I K O N C H U K A N N E W S

第20号 2013/2

特集 どうする?どうなる?外来生物



セアカゴケグモ



グリーンアノール



カミツキガメ



スマトラオオヒラタクワガタ



ヘラクレスオオカブトムシ



ホソオチョウ



アメリカザリガニ



ウシガエル



アライグマ



ほっとパーク昆陽池

昆陽池公園のハチ その1 スズメバチ科

日本のスズメバチ科はスズメバチの仲間とアシナガバチの仲間に分けられます。どの種も毒針をそなえ、攻撃性があるため注意が必要ですが、高度な社会生活を営む魅力的な昆虫でもあります。昆陽池公園には以下の計 11 種が確認されています。(長島聖大)

■キアシナガバチ *Polistes rothneyi*

国内で最も体の大きなアシナガバチです。体の斑紋はよく目立つ黄色で、前伸腹節(ぜんしんぷくせつ)に黄色のたてすじが2本あるのが特徴です。攻撃性は非常に強いので、巣を見つけたら刺激しないようにしましょう。



キアシナガバチ

■セグロアシナガバチ *Polistes jokahamae*

キアシナガバチとならんで体の大きな種です。体の斑紋は黄褐色で、前伸腹節は全体が黒色です。木の枝や軒下などに巣を作ります。チョウやガの幼虫を好んで狩り、肉団子にして巣に持ち帰ります。昆陽池公園では最も普通な種です。



セグロアシナガバチ

■ヤマトアシナガバチ *Polistes japonicus*

セグロアシナガバチに似ますが、前伸腹節には黄色のたてすじが2本あります。比較的小となしい種です。昆陽池公園での観察例はあまり多くありません。



ヤマトアシナガバチ

■フタモンアシナガバチ *Polistes chinensis*

黄色っぽい体色の種ですが、キアシナガバチよりもふたまわりほど小さく、腹部にはよく目立つ丸い黄色の斑紋を2つそなえます。



フタモンアシナガバチ(オス)

■キボシアシナガバチ *Polistes nipponensis*

体の斑紋はおおむね茶褐色で、前胸背板(ぜんきょうはいばん)は全体が黒色です。昆陽池公園での観察例はあまり多くありません。



キボシアシナガバチ

■クロスズメバチ *Vespula flaviceps*

体長 10 ~ 12mm ほどの小さなスズメバチです。地中や木の洞に営巣し、昆虫や動物の死体を肉団子にして巣に持ち帰ります。



クロスズメバチ

■オオスズメバチ *Vespa mandarinia*

体長は 30mm 以上にもなり、スズメバチ属 (*Vespa*) として世界最大の種です。地中に巨大な巣を作ります。毒針に刺されると激しく痛み、人命にかかわることもあります。

よく似たコガタスズメバチとは頭楯(とうじゅん)の形で見分けられます。



オオスズメバチ コガタスズメバチ
よく似た 2 種の頭楯のかたちくらべ

■コガタスズメバチ *Vespa analis*

木の枝などにサッカーボール大の球形の巣を作ります。人家周辺でも巣を作ることが多いので注意が必要です。



コガタスズメバチ

■ヒメスズメバチ *Vespa tropica*

腹部の末端節が黒色なのが特徴です。木の洞の中や屋根裏、地中などに巣を作ります。アシナガバチの巣を好んで襲い、その幼虫や蛹を狩る習性があります。昆陽池公園での観察例はあまり多くありません。



腹部末端節は黒色 ヒメスズメバチ

■モンズズメバチ *Vespa crabro*

木の洞の中や屋根裏、石の下などに巣を作ります。いろいろな昆虫を狩りますが、セミの仲間を好んで捕まえるようです。クヌギなどの樹液にもよくやってきます。



モンズズメバチ

■キイロスズメバチ *Vespa simillima*

体全体が黄色っぽい種です。木の枝、屋根裏、軒先、橋の下などに巣を作ります。一群の個体数は数百以上にもなり、きわめて強い攻撃性をもつので注意が必要です。



キイロスズメバチ

※フタモンアシナガバチを除いて写真はそれぞれ働き蜂

むしムシ虫眼鏡

Vol.20 えっ!? 真冬にバッタが生きている!?



ツチイナゴ

昆虫館に寄せられる質問に「真冬にトノサマバッタを見つけたんだけど、寒いのに大丈夫?」といったものがあります。その正体はツチイナゴ。トノサマバッタやクルマバッタモドキなどに似た大型のバッタです。体色は薄い茶色で体表に毛が多く、複眼の下から口にかけて涙のすじのような黒い線があります。トノサマバッタやショウリョウバッタは土の中に産みつけられた卵で冬越しするのに対し、ツチイナゴは成虫のまま、枯れ草などにまぎれて冬を過ごします。そして5月頃に産卵して子孫を残します。イネ科の草原を好んで暮らすトノサマバッタと異なり、ツチイナゴはクズなどツル

＜ツチイナゴ＞

学名: *Patanga japonica*

分類: バッタ目バッタ科

体長: オス約 50mm メス約 60mm

植物が茂った所でよく見つかります。食性も幅広くイネ科だけでなくクズやカナムグラなどの葉も食べます。自宅のベランダにまぎれ込んだツチイナゴをしばらく観察すると、冬でも暖かい日には動き回り、シクラメンの枯れかけの葉や花を食べていました。同じく成虫で冬越しする身近なバッタにはクビキリギス（キリギリスの仲間）もいます。こちらはとんがり頭と赤褐色の大アゴが特徴です。寒空のもと成虫で冬越しをするバッタたちにとって、草木の芽吹く春はまちどおしいことでしょう。（野本康太）



クビキリギス

亜熱帯の温室から

Vol.20 パパイア

パパイアは中南米原産とされる熱帯性の常緑多年草で、開花する株は2～10mほどの大きな木になります。本来は雌雄異株のようですが、チョウ温室に植えているのは両性株の品種なので単独で実をつけます。黄色く熟した実は甘く、トロピカルフルーツとして知られています。未熟な青い実も食用になって、千切りにしてサラダにしても美味しく、南西諸島では炒め物（パパイアチャンプルー）の食材として親しまれています。

チョウ温室では収穫した実を切ってお皿に置いています。コノハチョウなど一部のチョウは、花のミツよりも腐った果物のしるを好んで吸うのです。チョウたちの大切なエサにもなるパパイアは、途絶えることのないよう順次実生苗を作っています。種から発芽した苗は鉢植えにして育て、高さ約60cmの地植えにできる大きさに育つまでに5ヶ月ほど、4mくらいになって実をつけるまでに2年ほどかかります。大きくなりすぎた株は切り倒し、そのあとに苗を植えて定期的な更新をしています。（長島聖大）



大きくなって実をつけた株



パパイアの白い花と未熟な実



切った実のしるを吸うコノハチョウ

＜パパイア＞

学名: *Carica papaya*

分類: パパイア科

外来生物（外来種、帰化生物）とは「外」から「来」た「生物」、つまり「外国産」の生物のことです。外来生物の侵入は、生態系や農林水産業に大きな被害をもたらしています。企画展の開催にあわせて、今回の特集では近年話題の外来生物と、彼らがもたらす影響について紹介します。

特定外来生物と要注意外来生物

「特定外来生物」とは、2005年6月に制定された外来生物法（正式名称：特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）において、日本在来の動植物や生態系に害を及ぼす可能性があると考えられた生物のことです。防除の対象であるとともに、飼育、繁殖、栽培、保管、運搬、輸入等が厳しく制限され、これを守らない場合は法律で罰せられます。2012年現在、科・属・種あわせて105種類の生物が環境省より指定されています。

「要注意外来生物」は、規制を現在検討中もしくは調査中のもので、ミシシippアカミミガメやアメリカザリガニ、セイタカアワダ

チソウなど148種類が指定されています。外来生物全てが問題になっている訳ではありませんが、「特定」と「要注意」の2つの外来生物には注意が必要です。



特定外来生物 オオクチバス（ブラックバス）写真：環境省

表：各分類群における外来生物 参考：環境省外来生物法ホームページ (<http://www.env.go.jp/nature/intro/>)

分類群	特定外来生物（指定105種類）		要注意外来生物（指定148種類）	
	種類数	代表的なもの	種類数	代表的なもの
ほ乳類	21	ヌートリア、アライグマ、タイワンザル	2	リスザル、フェレット
鳥類	4	ソウシチョウ、ガビチョウ	8	インドクジャク、外国産メジロ
は虫類	16	カミツキガメ、グリーンアノール、タイワンハブ	8	ミシシippアカミミガメ、グリーンイグアナ
両生類	11	オオヒキガエル、ウシガエル	2	アフリカツメガエル
魚類	13	カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス	21	タイリクバラタナゴ、グッピー
クモ・サソリ類	10	ハイイログケグモ、セアカゴケグモ	0	なし
甲殻類	5	ウチダザリガニ、チュウゴクモクズガニ	1	アメリカザリガニ
昆虫類	8	セイヨウオオマルハナバチ、アルゼンチンアリ	7	ホソオチョウ、アカボシゴマダラ
軟体動物等	5	ニューギニアヤリガタリクズムシ	15	ムラサキイガイ、アフリカマイマイ
植物	12	オオキンケイギク、ミズヒマワリ、アレチウリ	84	ホテイアオイ、オオブタクサ



要注意外来生物 ミシシippアカミミガメ



特定外来生物 セイヨウオオマルハナバチ



特定外来生物 ソウシチョウ



セイタカアワダチソウ
要注意外来生物



特定外来生物 ヌートリア



特定外来生物 オオヒキガエル



要注意外来生物 アフリカマイマイ 写真：環境省

なる?外来生物

外国から日本にやってきた、もともとは日本にいなかった生き物」のことです。
もたらす問題について紹介します。

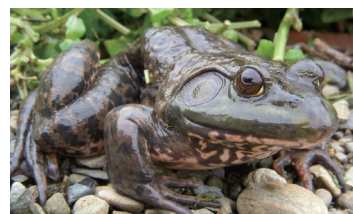
外来生物は悪者なの?

外来生物の中には、人間にケガをさせたり農作物を食べたりして、害虫や害獣になるものがあるのは事実です。また、もともと日本にすんでいる生物（在来生物）を食べたり、エサやすみかを奪ったりして、在来生物たちを「絶滅」させてしまう危険を持っています。そのため、外来生物には「侵略者」や「エイリアン」という悪いイメージがつきまといがちですが、そもそも彼らは好きで日本に来たものではありません。人間に連れてこられたり、外国からの荷物にまぎれたりして日本にやって来て、しかたなく暮らすようになっただけなのです。そして、その原因を作ったのは私た

ち人間なのです。つい悪者にされがちな外来生物ですが、日本という慣れない異国の地で一所懸命、彼らなりに生きようとしているだけなのかもしれません。



写真: 斎藤和範



ウチダザリガニ(左)やウシガエル(右)は、食用にするためアメリカ合衆国から日本に連れてこられました。そして、捨てられたり逃げ出したりしたものが野生化してしまったのです。

企画展「どうする?どうなる?外来生物」



企画展展示室の入口

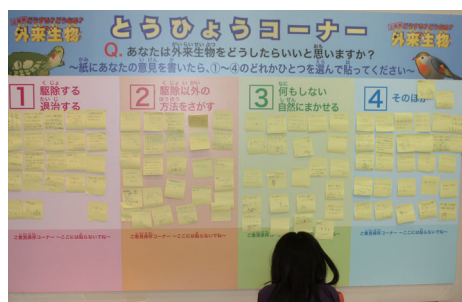


展示室内の様子



セアカゴケグモの生態展示

当館では、企画展「どうする?どうなる?外来生物」(開催期間: 2012年11月14日~2013年2月25日)で外来生物問題を取り上げました。「いたこん」らしいユニークな切り口で、伊丹周辺でよく見られるものを中心に、昆虫類・ほ乳類・両生類・は虫類・魚類・貝類・植物等の外来生物43種を紹介しました。環境省及び農林水産省から許可を得て実現した、オオクチバス(ブラックバス)やセアカゴケグモ、カダヤシ等の特定外来生物を生態展示したコーナーが特に注目され、皆さんじっくりと観察していました。



どうひょうコーナーには、様々な意見が寄せられました

外来生物をとりまく問題は、駆除の是非にはじまり、様々な意見や立場、利害がからみ合い、なかなか身動きがとれません。しかし、今すぐ何らかの手を打

たなければ、大切な日本の自然環境が破壊され、取り返しのつかない事になってしまうかもしれないのです。この深刻な危機に、私たちは一体どうすべきなのでしょう? また、外来生物たちはこれからどうなるのでしょうか? そもそも人間が引き起こした問題である以上、その解決に取り組む責任も、また私たちにあるのではないのでしょうか。

私たちの周りにはすでに外来生物があふれており、もはや行政や専門家だけではどうにもならないところまで来ています。私たち一人一人が外来生物たちと真剣に向き合い、行政や専門家と力をあわせ、オールジャパンで取り組む事が外来生物問題を解決できる唯一の方法なのかもしれません。例えば、ヘラクレスオオカブトムシやニジイロクワガタ等、飼育中の外来生物を捨てたり逃がしたりしない事、あまり見かけない外来生物に出会った場合は、博物館や昆虫館、水族館等に連絡する事、外来生物に関する調査会や勉強会に参加する事等、できることから始めるのが大切な事ではないのでしょうか。どんな事でも結構ですので皆さんの力をお貸し頂ければ幸いです。(奥山清市・野本康太)

「さいきんの

原種のハイビスカス準備中！

ハイビスカスといえば南国の花、情熱的な「赤」をイメージする方も多いのではないのでしょうか？ もちろんそのとおり、ハイビスカスの花色は赤のほか黄やオレンジが多いのですが、白花があるのはご存じですか？



ヒビスクス・アーノットティアヌス

2012 年秋、昆虫館では白花のハイビスカスを育て始めました。しかもそれはハワイ産の原種（元々その土地にあった、品種改良されたり雑種でないもの）、アーノットティアヌス種とワイメアエ種で、これらは園芸店でもほとんど見かけることはありません。真っ白な花からは「美しく清楚」なイメージがありますが、育てるには気むずかしい部分もあり、「わがままおじょうさま」という感じが

します。そして原種のハイビスカスとして、ハワイにおける絶滅危惧種となっているクレイ種とコキオ種も同時に育てています。

残念ながらこれら原種のハイビスカスは、現在まだ高さ 30cm ほどの小さな木なので、温室デビューに向けて鉢植えで養生中です。みなさまに見ていただけるまで、もうしばらく（あと数年？）気長にお待ちください。（田中良尚）



ヒビスクス・コキオ



養生温室でデビューをまっ鉢植えたち

カメノコtentウの飼育

カメノコtentウは、成虫・幼虫ともにクルミハムシなどハムシ類の幼虫をエサとしている、大型の肉食性tentウムシです。

2012 年 5 月上旬に採集した成虫 1 ペアを、昆虫館で飼育することになりました。近くにエサになるようなハムシ類を見つけられず、飼育・繁殖は難しいだろうと考えていました。かわりに食べるエサはないのか？と探しているところに、駆除されたアシナガバチの巣が手にはいりました。アシナガバチの幼虫をカメノコtentウに与えてみると、すぐに「ガブッ！」と食いつきました。オスはすぐに死んでしまいましたが、メスは長生きし、赤い卵を産卵し始めました。死亡するまでの 1 ヶ月半のあいだに、19 卵塊（卵数 4 個～23 個）を産卵しました。卵から先にふ化した幼虫が、ほかの卵を食べたり、幼虫同士が共食いしたりします。そのため、できるかぎり個別に飼育しました。エサは、アブラムシには見向きもしないため、ハチの幼虫を調達し与えました。駆除されたアシナガバチの巣や、飼育しているミツバチの巣からとりだした幼虫です。産卵からふ化まで約 4 日、ふ化から 4 齢幼虫をへて蛹化ま

で約 12 日、蛹が羽化するまで約 6 日、全体で産卵から羽化までおよそ 21 日間かかりました。最終的に成虫となったのは 25 匹でした。カメノコtentウは年に一回だけ繁殖するので、冬越しをして翌年の初夏に繁殖します。ただいま冬越し中、うまくいけば 5 月頃に生態展示できればと考えています。（角正美雪）



産卵中のメス成虫



4 齢幼虫



さなぎ



羽化の瞬間



羽化直後はオレンジ色で、後ばねをゆっくりたたんでゆく



羽化後のカメノコtentウ

飼育室から

ゾウカブトやっとな成虫に

2012年10月、生態展示室にアクテオンゾウカブトがデビューしました。ゾウカブトの仲間は中南米を中心に分布し、世界で最も重いカブトムシとされています。体重を量ると、日本のカブトムシ約10gと比べて約5倍の47gでした。この個体は2010年6月に北海道遠軽町にある丸瀬布昆虫生態館より寄贈された、大きな3齢幼虫を飼育して羽化させたものです。その幼虫は寄贈されてから約2年昆虫マットを食べ続け、どんどん大きくなりました。2012年4月、体の色が黄色くなった幼虫はついに蛹になり、同年8月には立派なオスが羽化しました。日本のカブトムシは卵か

ら約10ヶ月ほどで成虫になりますが、このゾウカブトは3齢幼虫から成虫になるだけで約2年4ヶ月もかかりました。エサや温度など飼育環境にもよりますが、卵から成虫までに3年以上はかかるようです。残念ながらこのオス成虫は約6ヶ月間で死んでしまいました。現在は後から羽化してきたメスを飼育中です。(野本康太)



展示中のアクテオンゾウカブト

4年ぶりの「新春ちょうちょ おみくじ」

2013年1月1日～3日のお正月企画は、4年ぶりにちょうちょおみくじをおこないました。今回ははじめて、空気の流れでくじが舞う機械が登場しました。くじには10種類のチョウの図柄がプリントされていて、まるでチョウ温室を舞うチョウのようでした。1/10の確率であたる「大吉」くじをひかれた方には、特製オリジナルキーホルダーをプレゼントしました。

このちょうちょおみくじは、そこにプリントされているチョウを

温室の中で実際にさがしてもらおう!という観察のきっかけになるように企画しました。お正月からたくさんの方がお越し下さり、楽しんでいただきました。(角正美雪)



ちょうちょおみくじ



舞うくじをとっていただきました

ウケジママルバネクワガタ調査で奄美群島の請島を探検!

ウケジママルバネクワガタ (*Neolucanus protogenetivus hamaii*) は、奄美群島の請島(うけじま)という小さな島にのみ分布するクワガタムシです。環境省のレッドリストでは絶滅危惧IB類(EN)、鹿児島県指定希少野生動物かつ瀬戸内町指定天然記念物と、その「少なさ」について多くの肩書きがあります。その理由は生息する場所がとても狭い範囲に限られているためです。2012年9月の1週間、本種の生息状況と生息環境について調べるために、請島へと渡りました。

請島での調査は、昼間に温度計の設置や林の状況を調べ、夜



ウケジママルバネクワガタ

はウケジママルバネクワガタを探すために真っ暗な原生林の中を8時間歩き回り、明け方にやっと眠れたと思いきや4～5時間で起きるという超ハードなものでした。なんとか無事に調査を終えることができましたが、結局ウケジママルバネクワガタはオス15匹・メス1匹を確認できたにとどまり、そう簡単には観察ができないと認識しました。今後も調査を続け、このクワガタムシが棲みやすい環境とはどのようなものなのかを、明らかにしたいと考えています。(田中良尚)



調査中の筆者

※この調査は平成24年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受け行いました

※調査にあたり、鹿児島県並びに瀬戸内町教育委員会の許可を得ています

てんとうむし展はじまるよ。

身近な昆虫でもあり、かわいらしく、親しまれるテントウムシについての企画展がはじまります。くらし方や育ち方、多様な種類とその紋様などテントウムシのふしぎがいっぱいつまっています。お楽しみに!! (角正美雪)



キロテントウ

ナミテントウ

ナナホシテントウ

カメノコテントウ

伊丹市昆虫館友の会に入りませんか？

今年で10周年をむかえる伊丹市昆虫館友の会は、昆虫や自然と親しみ、学ぼうとする人たちの集まりです。観察会や調査会、ハイキングなど会員だけの行事のほか、年2回の「友の会ニュース」と「いたこんニュース」の送付などの特典があります。友の会の年度は1月から12月まで、年度途中からの入会もOKです。会員になって、仲間と出会い、昆虫や自然と親しくなりませんか？ お問い合わせは昆虫館まで。(長島聖大)

大人会員
1000円

子ども会員
500円
(小学生以上)

家族会員
1500円
(3人までの会費)



自然観察ハイキングのようす

もよおしあんない

2月

- 9 (土) ふれあい体験「むしさんこんにちは」
10 (日) 虫のおりがみワークショップ 予約制
17 (日) チョウ温室ガイド
23 (土) 封入標本づくり 2回連続講座 予約制

3月

- 2 (土) ふれあい体験「むしさんこんにちは」
9 (土) シルク真綿ふとんをつくろう 予約制
16 (土) うらがわ探検

企画展

11/14 ~ 2/25 どうする？どうなる？外来生物
2/27 ~ 5/13 てんとうむし

プチ展示

1/30 ~ 3/4 友の会活動紹介
3/6 ~ 5/20 虫の質問いろいろ

行事の申込方法

くわしい内容は...

申し込むには...

- ・伊丹市内に在住の方
「広報伊丹」をごらんください。
*広報伊丹へは実施日の約1ヶ月前に掲載します。
電話での問い合わせには掲載以降にご案内します。
*広報伊丹は伊丹市ウェブサイトでもご覧になれます。
- ・伊丹市外に在住の方
電話でお問い合わせください。
*講習会・観察会実施日の約1ヶ月~2週間前までにお問い合わせください。

- ・FAX、Eメール(携帯電話不可)、往復はがきに、行事の名前、参加する全ての方の氏名(ふりがな)年齢(学年)、住所、電話番号を記入し、受付期間内にお送り下さい。
- ・申込多数の場合は抽選となります。
- ・FAXの宛先番号 072-785-2306
- ・Eメールアドレス ge7n-skmt@asahi-net.or.jp (携帯メール不可)
- ・往復はがきの宛先住所 〒664-0015 伊丹市昆陽池 3-1 伊丹市昆虫館

新商品続々! 昆虫館オリジナルグッズ販売中

伊丹市昆虫館オリジナルグッズにミニタオルが仲間入りしました。大きさ20cm×20cm、吸水性や通気性に優れたマイクロファイバーという特殊な生地できています。絵柄は樹液の虫(カブトムシ・クワガタムシ・カナブン・スズメバチ)、チョウ温室の人気者オオゴマダラ、てんとうむし(学芸スタッフ角正がデザインしたキャラクター)の3種類各450円で販売中です。野外活動の持ち物に1枚いかがでしょうか?

(野本康太)



伊丹市昆虫館オリジナルミニタオル3種

チョウ温室のヒスイカズラ、来年こそ初開花!?

ヒスイカズラは息をのむほど美しい「翡翠(ひすい)色」の花を咲かせる植物です。2013年1月22日、チョウ温室出口前の藤棚仕立てにしているヒスイカズラが、つぼみを一房つけたのを確認しました。この株は約8年前に苗を植え、ようやく花を咲かせるほどに枝や葉が充実したようです。しかし残念ながら2週間ほどでつぼみは全て害虫に食われてなくなっていました。来年こそ初開花の姿を披露するため、栽培管理に再挑戦します。(長島聖大)



ヒスイカズラのつぼみ

編集スタッフより

ヒスイカズラの開花失敗が残念でなりません。でもいつの日か温室出口前の天井一面に咲く日を夢みて、これからも育て続けます。(ながしま) 平成25年4月より、伊丹市昆虫館は伊丹市立となります(これまで財団法人伊丹市公園緑化協会でした)。これまで以上に皆様に愛される「いたこん」を目指しますので、今後ともお引き立ての程よろしく願います。(おくやま)